

第25回関西館小展示を開催します(2/21-3/19) 「人体ワンダーランド ～からだをめぐる冒険いまむかし～」

ひとの身体は不思議に満ちています。古代から、人間の身体が何でできていて、どうして動くのか、病の原因は何か、ということが探究されてきました。

昔の知識は現代の私たちから見ると荒唐無稽と思えるものもありますが、そうした人々の試行錯誤が積み重ねられた結果、現代の知識にたどり着いています。現代では、未来に向けて研究がすすめられ、医療をはじめとしたさまざまな分野に還元されています。

今回の関西館小展示は「人体ワンダーランド ～からだをめぐる冒険いまむかし～」と題し、「人体のしくみ」「骨・筋肉」「神経・脳」「免疫」「治療・療法」の5つのトピックに沿って、人体に関する歴史的な本から最新の成果まで、本や雑誌約100点をご紹介します。



○概要

【関西館小展示「人体ワンダーランド～からだをめぐる冒険いまむかし～」】

開催期間：平成31年2月21日（木）～3月19日（火）（日曜は休館）

開催時間：午前9時30分～午後6時

展示資料数：約100点

会場：国立国会図書館関西館 閲覧室（地下1階）

（〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3）

入場：無料・年齢制限なし（18歳未満の方は受付でお申し出ください。）

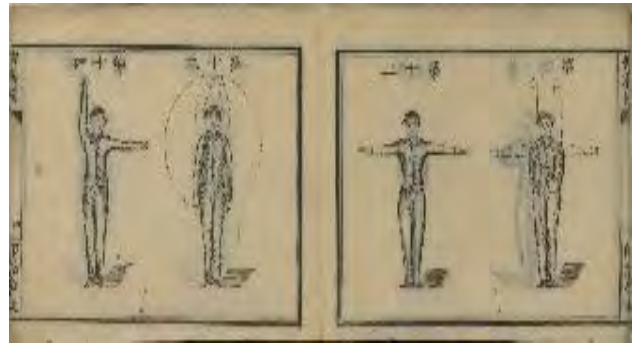
問合せ先：国立国会図書館関西館 資料案内（電話：0774-98-1341）

URL：http://www.ndl.go.jp/jp/event/exhibitions/kansai_201902.html

○展示資料例

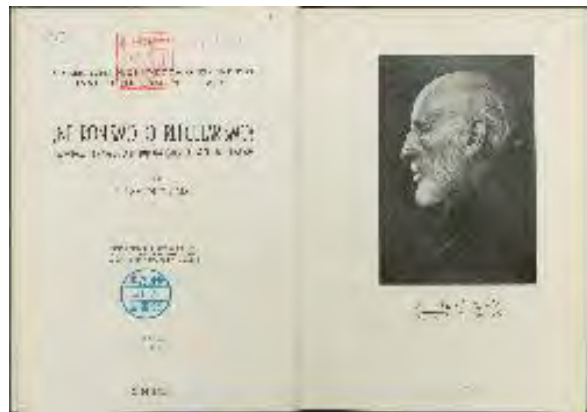
『体操図：文部省正定』師範学校 [編].
 浜田県, [明治-]

「体操」は、心身の健康に寄与するものとして、明治期に学校教育に取り入れられた。「文部省正定」と付けられた本書は、1870年代にアメリカで刊行された体操指導書の挿絵を基にして師範学校で編纂され、小学校の教材として使われたと推測される。初期の体操教育の一端を知ることができる資料。



『ネウロン説か網状説か?』カハール 著,
 福田哲雄 訳. 永井書店, 1960【491.17-
 cR17n】

ニューロン説を提唱したラモン・イ・カハールが、それまでの自身の研究を総括した著作の邦訳。原典はカハールの晩年に執筆され、死後の1933年に公表された。



○撮影について

開催期間中（土曜日、日曜日を除く。）は午前9時から午後7時まで取材していただけます。ただし、来場者がいる午前9時30分から午後6時の間は、来場者の観覧を優先させていただきます。（来場者の撮影、周囲に聞こえるような音声を伴う撮影、大人数による撮影等
 はご遠慮いただく場合があります。）なお、照明器具を使用する撮影はできません。

撮影のために来館される場合は、事前にご連絡くださいますようお願いいたします。

○問合せ先

展示内容・講演会について：国立国会図書館関西館 小展示班 木下（電話：0774-98-1325）
 取材申込み：国立国会図書館関西館 総務課総務係（電話：0774-98-1224）

※掲載した画像は当展示会の広報の目的でお渡しすることができます。
 展示資料の画像掲載の際には、書誌情報及び当館所蔵であることを明記してくださいようお願いいたします。